

平成 27 年度自治医科大学大学院看護学研究科 FD 活動のまとめ

1. 大学院看護学研究科 FD 研究会の実施

1) 博士前期課程 FD 研究会

- (1) テーマ 「本看護学研究科博士前期課程平成 26 年度施行教育課程の評価」
- (2) 日程 平成 28 年 3 月 9 日(水) 10:30~12:00
- (3) 会場 看護学部校舎 中教室 2
- (4) 概要

前半は共通科目の評価をサブテーマに新たに必修科目となった「看護管理・政策論」と新規開講科目の「フィジカルアセスメント特論」「臨床薬理学特論」について、科目責任者から短時間で報告を受け(「病態生理学特論」は科目責任者の欠席により資料確認のみ)、討議した。「看護管理・政策論」の必修化は本課程の教育目標を達成するために必要であり、他の専門科目でも看護管理等の組織に関する理解が深まったと評価された。また、いわゆる「3P 科目」と称される新規開講科目は連動して学べるように運用していることは適切であり、とくに「フィジカルアセスメント特論」ではスキルトレーニングの時間の増加を検討することとなった。また、「看護実践研究論」と「地域調査法」の内容と学修者の状況についても検討された。

後半は、課題研究について現状について、各領域責任者から報告を受けた後、特別研究との差異とその根拠の明確化、修士論文としての質の保証、課題研究の研究方法及び倫理審査について討議した。

- (5) 参加者 専任教員 18 名(出席率 85.7%)、領域責任者推薦教員 4 名 計 22 名
- (6) 評価 アンケート回収数 15(回収率 68.1%)

教育課程の現状と課題について共有できたとする者がほとんど(93.3%)で、担当する授業科目等の課題について発見できた者が 73.3%であり、全員がプログラムを適切と判断していた。

2) 博士後期課程 FD 研究会

- (1) テーマ 「本看護学研究科博士後期課程第 1 期修了生輩出までの教育課程の評価」
- (2) 日程 平成 28 年 3 月 9 日(水) 8:50~10:20
- (3) 会場 看護学部校舎 中教室 1
- (4) 概要

まず、専門科目および専門関連科目について科目責任者による各科目の評価の報告を受け、広域実践看護学特別研究の現状として、指導内容・方法及び研究計画審査会の状況について報告を受けた。全体ディスカッションでは、「地域保健医療研究論」の内容と担当教員について、また、広域実践看護学特論Ⅱ・Ⅲについて授業内容と方法について原則を確認するとともに、広域実践看護学演習の内容について共有し、履修学生が担当教員に連絡・相談する方法を明示するとともに、授業の展開方法について次年度オリエンテーションまでに検討することになった。さらに初回の学位論文審査過程を通して明らかになった、プレゼンテーションの方法や配付資料等について検討することとなった。

- (5) 参加者 専任教員 14 名(出席率 87.5%)

2. 研究科長と大学院生との懇談会

年2回、看護学部校舎内の学部長室において、講義・演習、研究指導、および学習環境について大学院生から意見を聞き、必要な対応を行った。

1) 第1回懇談会

- (1) 日程 平成27年9月25日(金)17:00~18:00
- (2) 参加者 全学生計16名(出席率66.7%)
- | | | | | |
|----|---------|--------|--------|----|
| 内訳 | 前期課程1年次 | 6名、2年次 | 6名 | |
| | 後期課程1年次 | 2名、2年次 | 1名、3年次 | 1名 |

(3) 得られた意見・要望

① 授業および研究指導について

前期課程では、「フィジカルアセスメント特論」の授業内容の再検討と実技演習を増やすことについて要望があった。また、社会人に合わせた開講時間の設定や学部授業科目の聴講の希望が出された。

後期課程を含めて、授業評価や授業への要望を出す機会がない授業科目もあり、要望を出す機会を増やすことについても要望があった。

② 学習環境について

空調(冷房)機能は研究室では改善したが教室では改善がみられていないこと、カーペットの清掃後の異臭が10日以上続いたこと、消音装置やウォシュレット等のトイレ設備の改善、コピー機の機能の向上、男性学生用の臨時宿泊施設がないことから、シャワー室設置の要望が出された。

(4) 要望に対する対応

① 授業及び研究指導について

前期課程において指摘のあった科目については、今後検討することになった。また、授業評価等の内容については、オリエンテーションにおいて本看護学研究科におけるFD活動として周知することになった。

② 学習環境について

老朽化した設備の更新等予算措置と費用対効果について今後検討することとなった。

2) 第2回懇談会

- (1) 日程 平成28年2月29日(月) 17:15~18:15
- (2) 参加者 修了予定者計5名(出席率71.4%)
- | | | | | |
|----|------|----|------|----|
| 内訳 | 前期課程 | 4名 | 後期課程 | 1名 |
|----|------|----|------|----|

(3) 得られた意見・要望

前期課程では、本看護学研究科での学び方について、入学時の理解が不十分であったり、多くの労力をかけたりしたことについて感想が述べられたが、修得できたものについて満足感が述べられた。就業継続で学ぶ学生からは個別の状況に応じた調整や配慮が有効であったと評価され、大学院に専念している学生からは経済的な支援の必要性について要望があった。

後期課程では、職場の配慮は終了まで不可欠であること、看護学研究科博士前期課程・後期課程合同研究セミナーでの教員等の意見について、継続的にプレゼンテーションをすることにより意味を理解できるようになり、研究活動の充実につながっていると評価された。

学習環境については、研究室の室温について、冬季の問題は解消したが、夏季について継続して室温調整が課題であることが述べられた。また、書籍の収納場所について不足していることの指摘があった。

(4) 要望に対する対応について

- ① 経済的支援については、本看護学研究科奨学金の運用についてすでに検討して改善しているが、引き続き検討することとした。
- ② 書棚等は十分に整備されていることから、運用について検討し、空調設備については引き続き検討することとした。

3. 看護学研究科担当教員間の評価

平成 26 年度は実施しなかった。博士前期課程新カリキュラムおよび博士後期課程の完成年度(平成 27 年度)に FD 研究会として検討し、今後は FD 研究会や研究科委員会において実施する。

4. 平成 27 年度 科目責任者による授業改善の取り組み

1) 博士前期課程

(1) 共通科目

科目名	科目責任者	授業改善の取り組み
看護管理・政策論	春山 早苗	無記名による自作の授業評価票により評価した。項目は「必修科目であることの意義が理解できるか」「授業内容及び授業スケジュールへの意見・要望」「授業全般の感想」とした。評価結果に基づき、次年度の授業改善内容を検討した。
病態生理学特論	北田 志郎	初回講義時に講義内容の要望を聴取すると共に、事前課題の振り分けを行った。その後も適宜授業内容について受講生からの意見を聞き、以降の授業に反映させた。非常勤講師の授業終了後に講師からも意見を聴取し、科目全体の構成と授業間の連動について検討した。
フィジカルアセスメント特論	中村 美鈴	38 単位教育課程における授業科目の到達目標に対する受講生の達成プロセスを把握しながら、適宜、授業の際に、授業・演習内容や進め方、高度看護実践への応用性などについて、意見や要望を訪ねた。さらに科目担当者や非常勤講師、研究科委員会 FD 検討会において、授業終了後に到達目標や運用方法について振り返りを行い、さらにより良い方法を検討した。
臨床薬理学特論	大塚 公一郎	最終回の授業後に、受講生より授業に対する感想・意見・要望等を聴取し、また科目担当者からも授業終了後に意見を聞き、次年度の授業改善に努めた。
看護実践研究論	半澤 節子	オムニバスで授業を展開するため、各教員が相互に講義内容を確認できるよう、最初に講義を行う教員は、院生の研究テーマや看護実践経験一覧を作成して共有した。また、教員の配布資料や院生の提出レポートなどはファイルし次の教員に送る方法を取り、院生への個別のコメントやゼミの進行に役立てた。最後に講義を担当する教員は、本科目に対する院生の感想を受け付け、最終レポートにおける学び等を確認し、次年度以降の授業改善に活かすよう担当教員で共有した。
コンサルテーション論	永井 優子	非常勤講師とは授業資料等について共有するとともに、担当回終了後には学生の反応と今後の対応についてともに検討している。また、毎回の授業終了時に学生からの質問を確認して、最終レポートにおける学び等を確認し、次年度以降の授業改善に活かした。
看護倫理	小原 泉	全 15 回の授業は、講義と演習課題の関連を再確認して構成した。受講生の反応に合わせて演習でのディスカッションテーマを柔軟に調整し、非常勤講師とも随時情報を交換して、学修課題の達成に努めた。科目責任者が直接担当する授業の際に受講生の意見・感想を聞き、講義の理解度、演習課題の難易度や取り組み状況、有用性や満足度を確認して授業改善に努めた。
看護継続教育論	本田 芳香	科目担当者間で前年度の科目達成状況および取り組み状況を確認し、事前学習課題内容に反映させるよう努めた。科目担当者および科目責任者は、各授業終了後、受講生の理解度や取り組み状況などの意見や感想をきき授業改善に努めた。科目終了後、科目担当者間で課題への取り組む状況や達成度についての意見交換をし、次年度の授業改善に向けて検討した。
地域医療論	北田 志郎	科目担当者と非常勤講師の講義内容を踏まえ、科目責任者の講義をそれらと連動するよう構成した。受講生の勤務地または居住地を対

		象とした事前課題を設定し、応用力・実践力の涵養に努めた。
地域調査法	渡邊 亮一	授業実施中に適宜、科目責任者が受講者から授業内容や授業の進め方などについて意見や要望を聴取し、授業改善に努めた。また、科目担当者からも授業終了後に意見を聴取した。その結果は、次年度の授業改善に役立てる。

(2) 専門科目

領域	科目責任者	授業改善の取り組み
小児看護学	横山 由美	各科目の途中で、授業の進捗や内容について学生に確認しながら行った。また、最終授業終了後に学生の感想や意見、学びについての課題と非常勤講師からの学生の学びの評価や授業の改善点などを合わせて次年度の授業改善に努めた。
母性看護学	成田 伸 野々山 未希子	教育課程が 38 単位になった 1 年次については、院生の学習状況・評価・感想を適宜確認しながら、課題が過重にならないように、調整を行いながら進めてきた。2 年次は初めての 38 単位での実習であったが、順調な進行を確認するとともに、次年度以降の改善に向けて検討を重ねている。
クリティカルケア看護学	中村 美鈴	38 単位教育課程における授業の到達目標に対する受講生の達成プロセスを把握しながら、適宜、授業の際に、授業内容や進め方、高度看護実践への応用性などについて、意見や要望を訪ねた。さらに科目担当者、研究科委員会 FD 検討会において到達目標や運用方法について振り返りを行い、さらにより良い方法を検討した。
精神看護学 (旧カリキュラム)	半澤 節子	院生の進捗状況を確認しながら、学習意欲が維持向上できるよう、必要な助言を行った。また、院生から研究指導に対する感想を聞くとともに、次年度の研究活動のスケジュールの調整などを具体的に確認した。
がん看護学	本田 芳香 小原 泉	各学科目終了後、授業目標や内容の進行状況及び達成状況について、受講生からの意見や要望の収集、受講生の理解度の客観的な確認を随時行った。受講生の学修課題達成状況をふまえて、担当教員や非常勤講師からも意見をきき授業内容や運用方法を検討・調整した。
地域看護管理学	春山 早苗	今年度開講した講義・演習科目について、学習目標の達成状況および担当教員の意見を踏まえ、次年度の授業改善に向けて検討した。
看護技術開発学		未開講
老年看護管理学	宮林 幸江	院生の理解度を確認し、具象的内容を必要時には付加し授業を進めた。特に老年看護における視座、近未来の問題点について、熟思の姿勢を適宜強調・確認した。全体に学習意欲の維持を引き出すように努め、最後にレポート課題にて学修状況を確認した。また担当教員の意見を求めた。

2) 博士後期課程

(1) 専門関連科目

科目名	科目責任者	授業改善の取り組み
異文化精神医療論	大塚 公一郎	未開講
地域保健医療研究論	渡邊 亮一	最終回の授業終了後に、受講生より授業に対する感想・意見を聴取した。また、受講生の課題の取り組み状況、学習目標の達成状況については、担当教員間で意見交換を行った。これらの結果を踏まえて、次回の授業改善に努める。

(2) 専門科目

科目名	科目責任者	授業改善の取り組み
広域実践看護学特論Ⅰ ヘルスケアシステム研究法	春山 早苗	最終回において受講生より授業への意見等を聴取した。これに受講生の課題への取り組み状況および学習目標の達成状況を加えて、担当教員間で話し合い、次年度の授業改善に向けて検討した。
広域実践看護学特論Ⅱ クリニカルケア研究法	中村 美鈴	受講生の到達目標に対する達成プロセスを把握しながら、適宜授業中および最終回には、授業内容や進め方について、意見や要望を訪ねた。さらに科目担当者、研究科委員会 FD 検討会において、授業終了後に到達目標や運用方法について振り返り後、さらにより良い方法を検討した。
広域実践看護学特論Ⅲ メンタルヘルス研究法	半澤 節子	院生の研究課題に関連するメンタルヘルスケアについて、国内外の文献を用いてディスカッションを行った。また、教員による研究活動のプレゼンも加え、院生が自らの研究構想と具体的な研究計画を立案できるように努めた。
広域実践看護学特論Ⅳ 看護教育・管理研究法	本田 芳香	授業の到達目標を達成するため、受講生の既習状況および関心領域を確認し、科目担当者間で授業展開方法および課題内容を事前に検討しオリエンテーション資料を作成した。各授業終了後、受講生に課題への取り組み状況および達成度について意見や感想をきき、授業改善に努めた。授業終了後は、科目担当者間で科目達成度および課題内容の取り組み状況について話し合い、次年度の授業改善に向けて検討した。

広域実践看護学演習 〈ヘルスケアシステム〉 〈メンタルヘルスケア〉	半澤 節子	院生が選択した2つのテーマについて、院生の研究課題との関連性を考慮しながら文献レビュー、研究計画への発展について指導した。院生による進行状況のばらつきはあるが、複数の院生がともに学ぶことによる授業効果は大きく、演習での学びを合同研究セミナーで活用することも定着してきた。担当教員相互の情報交換にも努めることができた。
広域実践看護学特別研究	春山 早苗	今年度の修了生に研究活動や研究指導の感想・意見を聞き、次年度の研究指導の改善に向けて検討した。
	成田 伸	個別指導および合同研究セミナーから受講生の進捗状況を把握し、副研究指導教員からの意見も得て、研究指導に反映させている。
	中村 美鈴	個別指導および合同セミナーからの受講生の研究課題の明確化に至るプロセスと状況を把握し、副指導教員と共に定期的に研究指導を行ったことを振り返り、さらにより良い教育方法を検討した。
	永井 優子	個別指導および合同研究セミナーから学生の進捗状況を把握し、学生や副研究指導教員からの意見と踏まえて研究指導に反映させている。

5. 意見箱について

投稿された意見はなかった。

6. その他

博士前期課程学生を対象とした研究構想発表会(第3回合同研究セミナー)について

第3回合同研究セミナーは、看護学研究科博士前期課程の学生(主として1年次)が、原則として研究倫理審査の申請をする前に、研究構想について発表し、領域を超えた様々な意見を得て、研究を進めるうえで自己の課題を明らかにすることを目的として実施している課外活動で、運営と実施は学生に任されている。

平成27年度は平成27年11月9日(月)13:00~15:30に実施し、発表者は6名であった。終了後、博士前期課程の学生が主体的にアンケート(対象は参加した学生および発表者)を実施し、その結果を踏まえて、学生は運営マニュアルの引継ぎを含めて次年度に向けた課題を検討している。この報告を受けて、看護学研究科委員会において前年度の課題は解決して効果的に実施されていると評価した。